

特集

あらゆる小児分野の手術をOne stopで ～小児医療体制が充実しました～



新任科長の紹介

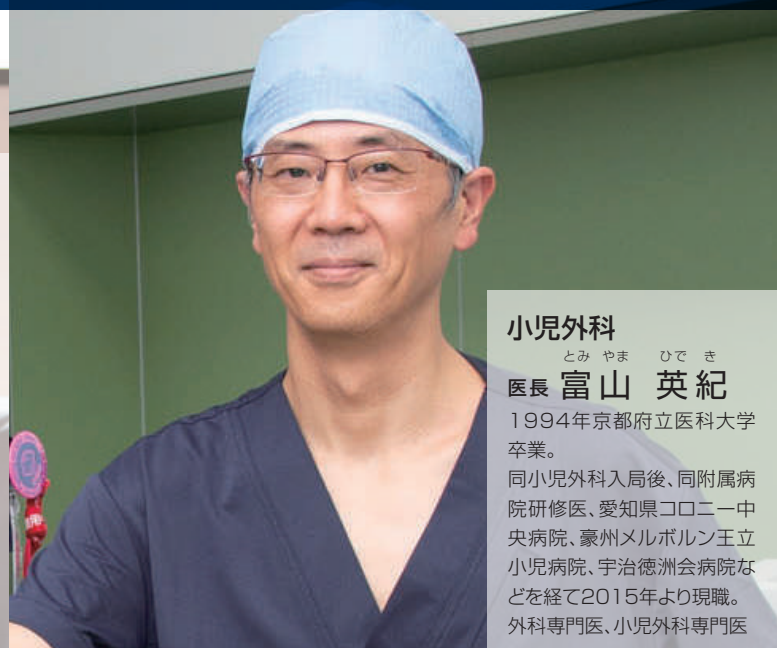
医療連携室からのお知らせ



脳神経外科・脳血管内治療科

かめだ まさひろ
医員 亀田 雅博

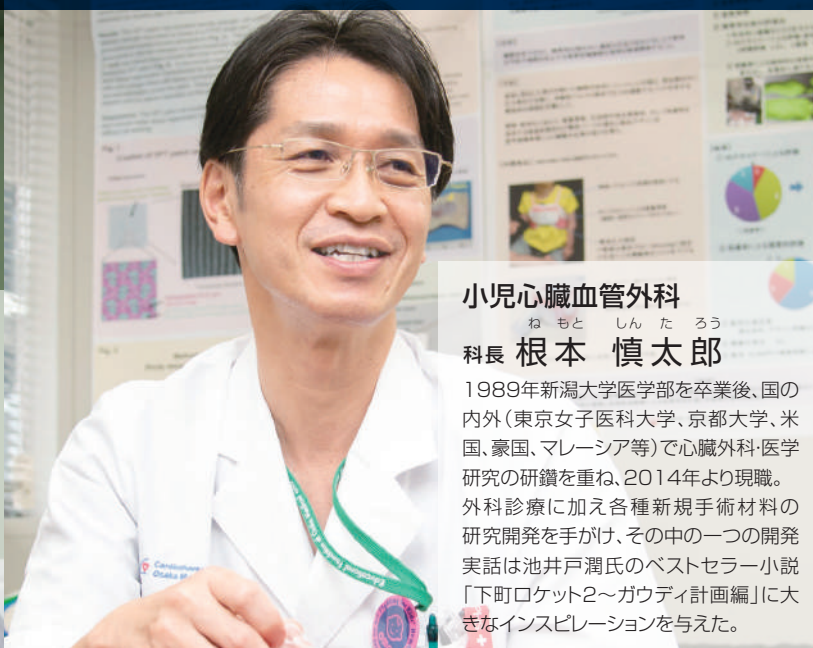
2000年岡山大学卒業。岡山大学及び関連病院勤務後、2006年Queensland Brain Institute、University of Queensland、Australia博士研究員、2012年国立成育医療研究センターにて専門研修、岡山大学講師を経て2021年4月より現職。脳神経外科学会専門医・指導医、小児神経外科学会認定医・学術委員、神経内視鏡学会技術認定医



小児外科

とみやま ひでき
医長 富山 英紀

1994年京都府立医科大学卒業。同小児外科入局後、同附属病院研修医、愛知県コロニー中央病院、豪州メルボルン王立小児病院、宇治徳洲会病院などを経て2015年より現職。外科専門医、小児外科専門医



小児心臓血管外科

ねもと しんたろう
科長 根本 慎太郎

1989年新潟大学医学部を卒業後、国の内外（東京女子医科大学、京都大学、米国、豪国、マレーシア等）で心臓外科・医学研究の研鑽を重ね、2014年より現職。外科診療に加え各種新規手術材料の研究開発を手がけ、その中の一つの開発実話は池井戸氏のベストセラー小説「下町ロケット2〜ガウディ計画編」に大きなインスピレーションを与えた。

特集 あらゆる小児分野の手術をOne stopで

脳神経外科・脳血管内治療科に小児脳手術のスペシャリストの亀田医師の着任により、新生大阪医科薬科大学病院の小児領域の外科治療がパワーアップしました！

脳神経外科・脳血管内治療科

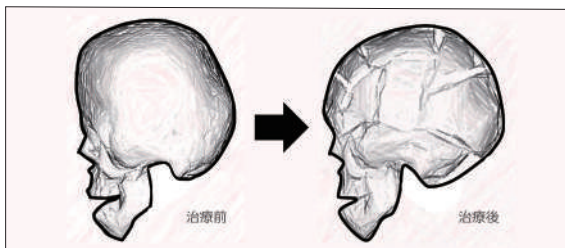
患児、そして親御さんと共に

これまで、通常の成人脳神経外科症例に加え、小児神経外科学会認定医として、小児関係各科の先生方とチームを組んで、脊髄髄膜瘤や脊髄脂肪腫などに代表される二分脊椎、水頭症、頭蓋骨縫合早期癒合症、脳腫瘍に対する手術を担当して参りました。Dimple、脳室拡大、頭囲の問題、特徴的な頭蓋形態、頭の形の歪みといった所見がありましたら、毎週金曜日の小生外来にご紹介ください。

小児脳神経外科では、本来、新生児期から成人期を迎えるまでの患者さんが治療対象となります。ただ最近では、小児期に脳神経外科で治療を受けたことのある成人患者さんも増えており、小児から成人への移行期医療の重要性も増しております。大学病院の強みを生かして、移行期症例についても対応いたします。

本来、こどもは自ら発達していこうとする過程にあるわけで、外科ですが、手術がすべてではなく、親御さんと一緒に患児の経過を見守ることも重要と考えております。ブランコに乗ったこどものそばで、親がこどもの背中を押して助走をつけてあげるように、患児に対して、その後の発達への助走をつけるお手伝いができれば幸いです。

● 診察：毎週金曜日



(写真) 頭蓋骨縫合早期癒合症：治療前後のシエマ画像

小児外科

不運な子どもたちを不幸にしないために できること

小児外科は新生児期から思春期頃までに手術治療を要する疾患のうち循環器および脳神経系を除くほぼ全ての領域が対象です。このため出生前診断される先天性の疾患から鼠径ヘルニアや臍ヘルニアといったcommon diseaseまで、治療する疾患は非常に多岐にわたります。また漏斗胸、異所性乳腺などの疾患も手掛けています。

外科というとすぐに切るイメージがあるかもしれませんが、相手はこどもであり、本人にとって待機的、保存的な治療がベストであればその選択を行い、十分に時間をかけていくこともあります。更に治療にあたっては将来的なQOLまでを考慮して極力創部が目立たない方法も積極的に採用しています。

● 診察：毎週水曜日

主な対象疾患

消化器疾患(消化管閉鎖、腸回転異常症、虫垂炎、メッケル憩室炎、腸重積、肛門周囲膿瘍、胆道拡張症)、耳前瘻孔、正中頸嚢胞、異所性乳腺、漏斗胸、乳児痔瘻、包茎、停留精巣、ヘルニア、陰嚢水腫など

小児心臓血管外科

“Count on us! We are on your side!”

平成18年に小児心臓血管外科が大阪医科大学病院に開設され、以後あらゆる先天性心疾患へ高いクオリティの手術を提供してきました。その守備範囲は広く、胎児診断に続く新生児期手術から成人期での再手術に至るまでをカバーしています。

手術ばかりでなく劇症型心筋炎や重症呼吸不全への緊急ECMO(膜型人工肺)治療にも対応しています。数多くの経験と知識に基づいた綿密な治療プランと親身なフォローアップで、患者さんの一生に寄り添っております。また小児循環器医に直結する24時間対応の「赤ちゃんの心臓ホットライン」は北大阪地区の産科と小児科の先生方にご好評を頂戴しております。

新たに生まれ変わった大阪医科薬科大学病院のスタートに当たり、チーム一同気持ちを新たに意気込んでおります。「子供の心臓の主治医」としてのご用命をお待ちしております。



(写真) 小児用緊急ECMO(膜型人工肺)

新任科長のご紹介 / メッセージ動画をアップしています。詳細は裏面“医療連携室からのお知らせ”を参照下さい /



一般・消化器・小児外科

たなか けいたろう
科長 田中 慶太郎

2021年4月1日着任

当科では新生児から高齢者までの消化器疾患を主とする手術を担当します。特に消化器がんに対する手術症例数は西日本屈指であり、個々の患者さんに応じた最適な個別化治療を行います。快適な日常生活への早期復帰を目指して、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術を積極的に導入し、確実に体に優しい手術を提供できるようにスタッフ一丸となって診療に従事します。

Profile

- 専門分野
大腸癌の診断と治療、大腸肛門外科、低侵襲機能温存手術
- 資格等
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本大腸肛門病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医
- 略歴
1991年 大阪医科大学卒業、
大阪医科大学 一般・消化器外科 研修医
1993年 南大阪病院 外科医員
1996年 大阪医科大学 一般・消化器外科 専攻医
2000年 大阪医科大学 一般・消化器外科 助手
2002年 フランス ストラスブール大学(IRCAD/EITS)留学
2004年 大阪医科大学 一般・消化器外科 助手
2007年 大阪医科大学 一般・消化器外科 講師(准)
2013年 大阪医科大学 一般・消化器外科 講師
2015年 大阪医科大学 一般・消化器外科 准教授
2016年 大阪医科大学 一般・消化器外科 特別任命教員教授
2020年 大阪医科大学 一般・消化器外科 専門教授
- 趣味・特技
ジョギング、愛犬と散歩、園芸、サッカー、ゴルフ



眼 科

きだ てるよ
科長 喜田 照代

2021年4月1日着任

現在当科には、網膜硝子体・黄斑、神経、斜視弱視、ぶどう膜、角膜、緑内障、涙道・眼形成など、全ての眼科専門外来があります。患者さんのQuality of Visionの向上を第一に、広域医療連携に貢献したいと思います。ご紹介何卒よろしくお願い致します。

Profile

- 専門分野
網膜硝子体疾患、黄斑疾患、眼循環
- 資格等
日本眼科学会専門医・指導医、眼科PDT認定医、医学教育指導医
- 略歴
1996年 大阪医科大学卒業、大阪医科大学眼科学教室入局
2002年 大阪医科大学大学院修了、医学博士
2002年 淀川キリスト教病院 眼科医員
2005年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校
眼科フェロー
2007年 淀川キリスト教病院眼科 副医長
2009年 市立枚方市民病院眼科 副部長
2011年 大阪医科大学眼科 講師(准)
2014年 大阪医科大学眼科 講師
2020年 大阪医科大学眼科 診療准教授
2021年 大阪医科薬科大学医学部感覚器機能形態医学講座
眼科学教室 教授

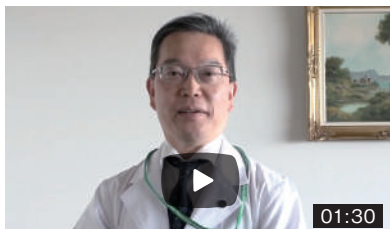
- 趣味・特技
旅行(コロナ禍で久しく出かけておりませんが、一日も早く終息を願うばかりです。)

医療連携室からのお知らせ

● 新任科長のメッセージ動画をアップしています

新任科長2名の医師のメッセージ動画を、当院ホームページにアップしております。いずれも3分程度の短い動画ですのでご覧ください。

メッセージ動画 病院ホームページトップ → 診療科のご案内 → 新任科長ご挨拶



【視聴期間】5月17日(月)～9月30日(木) 24:00

● 病院シンボルマークとロゴタイプを新しくしました

2021年4月の大学統合にあたり、新たにシンボルマークを作成しました。

「大阪医科薬科大学」のイニシャル「O」と英文頭文字「OMPU」をもとに、「人に寄り添うまごころ」と、その基盤となる「高度な教育・研究」を表しています。「O」を模した上部デザインは、ハートをイメージすることで生命の躍動を表現しています。病院名のロゴタイプも柔らかい字体にし、親しみのあるイメージにしました。



● 新連携証・連携プレートをお送りしております

病院名変更にともない、デザインも一新した連携証・連携プレートを連携医療機関様にお送りしております。お手元に届きましたら、新しいものに差し替えていただきますようお願いいたします。



医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日／8:30～20:00 土曜日／8:30～12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。



送信先 FAX 072-684-6339

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

COVID-19に翻弄された1年が経ち、3月には緊急事態宣言が解除され、感染者も減少傾向で一息つくかと思っておりましたが、ここにきて変異ウイルスの存在やワクチン接種の遅れなど平穏な生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。今夏は延期になった東京五輪、来冬は北京五輪とビッグイベントを抑えています。果たして開催できるのか気になるところです。

人は「〇〇しよう」という楽しみや「〇〇まで頑張ろう」と目標がなければ、日々のモチベーションは保てないものです。そのため、五輪のような大きなことだけでなく、身近な生活の中で些細な楽しみや目標を持つことが今後、大事になっていくのでしょうか。

当院は4月より名称変更に伴い新体制がスタートしました。医療連携室職員一同、高いモチベーションを持って、ご満足いただける病院になるよう尽力してまいります。(T.N.)

